C1

機関リポジトリを知ろう

高木和子
千葉大学附属図書館ライブラリー･イノベーション･センターリサーチフェロー

現在、世界中の大学や研究機関において、機関リポジトリ構築の意欲はますます高まりを見せている。機関リポジトリの考え方自体は以前からあったものだが、その言葉が広く使われるようになるきっかけが作られたのは、2002 年であるとされる。その後の数年の間に機関リポジトリは広く世の中に受け入れられるようになった。

現在世界中にいくつの機関リポジトリがあるのか、正確な数字を挙げることは不可能であるが、機関リポジトリのリストである ROAR (Registry of Open Access Repositories) には全部で 677 のリポジトリが登録されている。その内訳は、米国 184、英国 70、ドイツ 63、ブラジル 42、カナダ 32…と続く。

では､機関リポジトリは何故必要なのであろうか。一言で言えば､利益をもたらすからである。大学側からすれば、社会に対する大学のアカウンタビリティを高めるといいう大きなメリットがあるだけでなく、研究成果が一元的に管理され、半永久的に保存されることにより、全体としての経費は削減される。利用者にとっては、資料が無料で利用できるという利益がある。

機関リポジトリの特性は 1) コンテンツは学術資料であること、2) コミュニティ主導であること、3) セルフアーカイビングが基本であること、4) コンテンツは永続的に保存されること、そして 5) オープンアクセスであること､が挙げられる。これらの特性を実現化するためには、1) 資料登録機能､2) メタデータ付与機能､3) アクセスコントロール機能､4) 検索機能､5) 配信機能、6) 保存機能、という６つ基本的な機能が必要である。

機関リポジトリを構築する際に、解決しなければならない問題をいくつか取り挙げる。1) まず、誰が（どこが）主体となるべきかを決定すること。2) コンテンツ作成者（教員、研究者、学生、etc）への参加呼びかけを行うこと。その際には具体的にどのようなメリットがあるかを明確に説明することが大切である。そして、3) リポジトリに登録すべきコレクション・資料のタイプを決定すること。4) 論文の版管理を行うこと。5) 著作権などの権利問題を解決すること、などがある。

機関リポジトリのソフトウェアは無料、有料ともさまざまなものがある。それらの特性を良く見極め、将来的な見通しも考慮して自分の大学にとって最も適切なソフトウェアを決定することが大切であろう。

日本では、去年 2 月に千葉大学が CURATOR の運用を開始した。5 月 19 日現在、機関リポジトリを公開運用している大学は少なくとも 9 大学、試験運用中が 4 大学存在する。